

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地				
専門学校東京アナウンス学院		昭和59年4月2日		船場 吉行		〒 164-0013 (住所) 東京都中野区弥生町1-38-3 (電話) 03-3375-4141				
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地				
学校法人東放学園		昭和54年4月1日		斉藤 晃		〒 168-0063 (住所) 東京都杉並区和泉2-4-1 (電話) 03-3323-8531				
分野	認定課程名	認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度				
文化・教養	文化教養専門課程	声優科		令和6(2024)年度	-	-				
学科の目的	正しい発声技術や確かな演技力・表現力、愛される人間力、新たなニーズに応えられる対応力を身に着け、エンターテインメント業界で息長く活動できる声優を育成・輩出する									
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	●声優業界で長く活躍するために、声優としての基礎力(発声・発音・滑舌等)と役者の根幹たる演技力を徹底的に磨き、その上でマイクワークやアフレコの技術を確実に身に着けていく。●1年次、2年次ともに獲得した技術の成果発表の場として公演を実施して外部へPRするとともに、早期から見られる意識を醸成していく。●関連企業とのパイプを活かして、1年次から学内・学外のオーディションに積極的にチャレンジさせ、外部の仕事に携わる機会を可能な限り多く設けている。●卒業後も進路の支援を期限なく継続して行っている。									
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技		
2年	昼間	※単位数、単位いずれかに記入		1,700 単位数	150 単位数	0 単位数	1,725 単位数	0 単位数	0 単位数	
				単位	単位	単位	単位	単位	単位	
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)	中退率					
382人	254人	39人		0%	6%					
就職等の状況	■卒業生数(C)		107人							
	■就職希望者数(D)		15人							
	■就職者数(E)		14人							
	■地元就職者数(F)		7人							
	■就職率(E/D)		93%							
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		50%							
	■卒業生に占める就職者の割合(E/C)		13%							
	■進学者数		2人							
	■その他									
	・デビュー:85人・その他:6人									
(令和5年度卒業者に関する令和6年5月1日時点の情報)										
■主な就職先、業界等		(令和5年度卒業生)								
		81プロデュース、マウスプロモーション、シグマ・セブン、ケンユウオフィス、アクセルワン、プロフィット、EARLY WING、BLACK SHIP、ステイラック、アトミックモンキー、ホーリービーク、AIR AGENCY、AVILLA STAGE、トイズファクトリー、大沢事務所、ムーブマン、zowieQ、スーパーエキセントリックシアターほか								
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価:		無							
	※有の場合、例えば以下について任意記載									
	評価団体:	受審年月:		評価結果を掲載したホームページURL						
当該学科のホームページURL	https://www.tohogakuen.ac.jp/announce/voice_actor/									
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位数による算定)									
	総授業時数					1,700 単位数				
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数					210 単位数				
	うち企業等と連携した演習の授業時数					0 単位数				
	うち必修授業時数					1,200 単位数				
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数					150 単位数				
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数					0 単位数				
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)					0 単位数				
	(B: 単位数による算定)									
	総単位数					単位				
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数					単位					
うち企業等と連携した演習の単位数					単位					
うち必修単位数					単位					
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数					単位					
うち企業等と連携した必修の演習の単位数					単位					
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)					単位					
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを遡算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)					0人				
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)					5人				
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)					0人				
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)					0人				
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)					0人				
	計					5人				
	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数					0人				

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

高度な実践力や意欲の発揮に欠かせない人間性や自立心を育み、環境や技術等の変化が著しい当該業界において順応力を持った人材を輩出するために、①学生が享受すべき知識や技術について、連携企業との日常的なコミュニケーション・意見交換を通じて、教育課程の編成や教育環境の構築に関して、積極的に反映させる事。②就職先ともなり得る連携企業に所属する社員を講師として招聘し、実習・演習授業において実利性・専門性が高いカリキュラムを構成する事。以上を、企業等との組織的な連携の基本方針としている。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

学校長を委員長とし、以下、副校長、教務教育部長の他、就職指導や就職先企業の交渉等を主な業務とする学務管理部業務主任や学科運営を主たる業務とする学科主任を学内の委員とし、学科が委嘱する業界企業の方と業界関連団体に所属し、実践の環境を熟知し、あるいはそれらを俯瞰し統括する立場の方を学外の委員として構成している。

学外委員からは当該業界の動向や変化等について、学内委員からは学事や学生の動向等について意見交換を行い、積極的な情報共有を図る。また、カリキュラムのあり方や授業の構成について、同業界において求める人材像や育むべき人間性や実践力について等、これらの具体的要件に関しても意見交換や議論を行い、教育課程決定の基とする場として位置付けている。

当委員会の内容は、学内委員により学科毎に実施されているカリキュラム会議で発議がなされ、学科担当職員との意見交換を経て、重要度の高い項目等から教育課程の編成に取り入れられる。反映された項目は、次回以降の同委員会でのフィードバックがなされ、今後の会議運営に役立てる事とする。以上を教育課程の編成に関する意思決定の過程としている。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年8月10日現在

名前	所属	任期	種別
水城 大裕	一般社団法人日本芸能マネジメント事業者協会 理事 株式会社ミズキプロ 代表取締役社長	令和5年9月1日～令和7年3月31日	①
内海 賢太郎	株式会社賢プロダクション 代表取締役 一般社団法人日本声優事業社協議会 理事長	令和5年9月1日～令和7年3月31日	③
船場 吉行	専門学校東京アナウンス学院 校長	—	—
川田 泰弘	専門学校東京アナウンス学院 教務教育部 部長	—	—
大橋 真由美	専門学校東京アナウンス学院 学務管理部 部長	—	—
多田 圭吾	専門学校東京アナウンス学院 声優科 学科主任	—	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (9月、2月)

(開催日時(実績))

第1回 令和5年10月11日 15:00～16:00

第2回 令和6年3月25日 16:00～17:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

委員会で交わされた意見や改善提案などは次期カリキュラム検討において熟慮し、実行する内容は可能な限り早期に取り組む。

●現場でのリクエスト(音響監督による演出指示など)に応えられる対応力、人間力の強化を図る取り組みを期待したい(第1回委員会での意見)⇒2024年度前期に「セルフブランディング」を開講。オムニバス形式の授業で広範な能力開発を図る。

●社会に出る上で最低限必要なビジネスマナーを学生に習得してもらいたい(第1回委員会での意見)⇒2024年度前期に「ビジネスマナー(オンデマンド)」を開講した。繰り返し学べる形式で知識の定着を図る。

●デビューを目指す上で必要となる個性を磨く(第1回委員会での意見)⇒2024前期に科目の増配をした。また、在学中から現場に出る機会を増やすため、企業にも積極的に働きかける。

●事務所に所属している声優も確定申告が必要になるので、在学中にその学習機会を作れないか(第2回委員会での意見)⇒今季から開講した授業であるセルフブランディングの授業でカバーできるよう検討中。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

あらゆる声優活動に対応できる豊かで確かな表現力を身に付け、誰からも愛され業界で長く活躍できる声優を育成するために、次のポイントを踏まえて企業等と連携を図る。

①声優・芸能業界に広く通じていて現場で必要とされる力やトレンド、課題に意識を持ち、カリキュラムを編成するにあたり有用なアドバイスを得られる企業を選定すること ②企業・業界団体から随時適切な助言を得て実習授業に反映し、学生に還元すること ③企業との連携により生まれる人脈から新たな講師を迎えたり、学生の現場体験の機会創出、進路先開拓を積極的に行うこと

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

舞台、映像、アニメなどの演技・吹き替えに欠かせない台本の読解について企業が目線から授業をする。台本読解はオンライン授業となるが、単なる講義ではなく実際の発声を伴うリアルタイムの実習をしていく。また、声優として活用場面が広がるダンスについてもダンススタジオ運営やダンス公演を行う企業と連携し、声優として必要な体づくりやリズム感醸成に努めてもらっている。更に先述の台本読解を踏まえて1年次期末には全クラス演劇発表(有観客)をする。その際、演出はもちろんのこと、舞台制作、衣裳、照明、音響に至るまで企業(劇団)の助言をもらい、発表に反映させている。学修成果については、期末の実技試験を行い、企業が目線から到達度・成長度・取り組み姿勢・参加状況などを総合的に勘案し、評価付けをしている。また、演劇発表など本番のステージがある授業はその成果を個別に、そしてチームとしても評価し、成績付けの根拠としている。

上記の他、3月には学校全体の講師会を開催。当年度の振り返りと次年度授業に向けて情報共有・方針発表・授業依頼・懇親の場を設けている。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
中間発表	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	1年間の集大成として舞台発表を行う。ひとつの舞台をつくりあげることで、コミュニケーションの大切さを学び、観客の前で表現する難しさや緊張感を体験する。	株式会社社会学座
台本の読み方講座	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	台本へのアプローチの仕方を身につけ、台本の解釈、役を演じるための役作りにおいて必要な情報を読み取る力を養う。	株式会社社会学座
ダンスレッスンⅠ	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	身体のバランス感覚や柔軟性、筋力を総合的にバランス良く養って行くトレーニング方法を習得。また、音楽に合わせて踊るための音楽的な知識、カウント方法を身につける。	有限会社エーコネクション
ダンスレッスンⅡ	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	音楽に合わせて踊るための音楽的な知識、カウント方法を身につけることに加え、緩急、強弱等の表現に関わる部分を意識できるようにする。	有限会社エーコネクション

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係	
(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 本校では「東放学園 教員研修規程」として教員研修の目的、方針、教員の責務、報告などの事項を定めており、教員の業務経歴や能力、担当する授業科目等に応じ、専攻分野の実務に関する知識、技術、技能並びに、学生に対する指導力等、教員の能力及び資質等の修得・向上を図るため、適宜、企業等の連携した研修を行うことを基本方針としている。	
(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記 本校では「東放学園 教員研修規程」として教員研修の目的、方針、教員の責務、報告などの事項を定めており、教員の業務経歴や能力、担当する授業科目等に応じ、専攻分野の実務に関する知識、技術、技能並びに、学生に対する指導力等、教員の能力及び資質等の修得・向上を図るため、適宜、企業等の連携した研修を行うことを基本方針としている。	
(2) 研修等の実績	
① 専攻分野における実務に関する研修等	
研修名: 賛助会員、加盟社合同オンラインセミナー	連携企業等: 一般社団法人日本声優事業社協議会
期間: 2023年11月13日 16:00～18:00	対象: 声優科専任教員／教職員
内容: ●音声業界の今…ポストコロナの現状、スタジオ収録方法のスタンダード、数字で見る業界の今を報告 ●インボイスについて…10月からスタートした同制度が役者に与える影響について解説、ディスカッション ●AIボイスについて…驚異的なスピードで進化するAIが音声業界に与える影響と今後の展開を解説	
研修名: 役者としての生き方と考え方	連携企業等: 株式会社文学座
期間: 2023年11月11日 13:00～14:30	対象: 声優科専任教員
内容: ●文学座について ●役者を長く続けるための心構え ●演技や役作りをする上で大切なこと、質疑応答	
研修名: 声優の仕事の現状	連携企業等: 株式会社大沢事務所
期間: 2023年12月9日 13:00～14:30	対象: 声優科専任教員
内容: ●大沢事務所について ●アニメアフレコ、外国映画吹き替え、ゲーム収録などそれぞれの現場の違いと特徴 ●長く声優を続けていくために大切なこと、質疑応答	
② 指導力の修得・向上のための研修等	
研修名: プレゼン力向上研修	連携企業等: 株式会社マインドシェア
期間: 2023年10月16日～12月4日 16:30～18:00 (5日間)	対象: 声優科専任教員
内容: ●自分を表現すること、プレゼンテーションとは ●効果的につたえるための技術・心構え ●プレゼン動画を作成して発表	
研修名: 子どものメンタルヘルス	連携企業等: 公益財団法人東京都私学財団
期間: 2023年10月6日 14:00～16:30	対象: 声優科専任教員／教職員
内容: ●こころの育ちを考える ●ネグレクトがもたらすもの ●子どものBeingとDoing ●思春期について ●発達性トラウマについて ●自傷、自殺関連行動について	
研修名: アンガーマネジメント	連携企業等: 公益財団法人東京都私学財団
期間: 2023年10月31日 14:00～17:00	対象: 声優科専任教員／教職員
内容: ●アンガーマネジメントが必要とされる背景 ●包括的に学ぶアンガーマネジメントとは ●怒りの感情の理解 ●ストレスマネジメント(心を落ち着かせるスキル) ●認知変容(自分の考え方のくせを知り、変える) ●傾聴 ●アサーティブコミュニケーション	

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	「声優業界の現状と声優を目指す上での心構え」	連携企業等:	株式会社81プロデュース
期間:	2024年4月27日 13:00～14:30	対象:	声優科専任教員
内容:	●声優業界の現状 ●声優の仕事内容や業務の幅について ●声優業界を目指す上での心構え		
研修名:	第15回CONTENTS TOKYO	連携企業等:	RX Japan株式会社、出展各社
期間:	2024年7月5日 14:30～16:30	対象:	声優科専任教員／教職員
内容:	●一般社団法人Metaverse Japan…AR等最新テクノロジー紹介、他科教育課程編成委員会参加依頼、教員研修調整 ●株式会社IMAGICA GROUP…リアル空間とサイバー空間の共生による未来社会の実現 ●バルス株式会社…Vtuber・XRコンテンツのレクチャー、オーディションについて、産学連携模索		
研修名:	JAVCOMソフト制作研究委員会 2024年7月研修会	連携企業等:	NPO法人日本ビジュアルコミュニケーション協会(JAVCOM)イノテック株式会社
期間:	2024年7月8日 16:00～18:00	対象:	声優科専任教員／教職員
内容:	●イスラエル発AI活用の音声吹き替えサービス『DeepDub GO』紹介・デモ ●AIによる音声吹き替えサービスが普及することによる声優業界への影響について ●質疑応答・懇親会		
② 指導力の修得・向上のための研修等			
研修名:	令和6年度専修学校教員教職課程研修会	連携企業等:	一般財団法人職業教育・キャリア教育財団
期間:	2024年6月14日～11月15日(全25日間)	対象:	声優科専任教員1名受講中
内容:	●教育論(4回) ●教育と指導(11回) ●学生と支援(6回) ●学校のマネジメントと教職員の協働(4回) ●課題レポート提出		
研修名:	令和6年度就職等進路に関するセミナー	連携企業等:	公益社団法人東京都専修学校各種学校協会
期間:	2025年1月20日 15:00～16:00 ※オンライン形式	対象:	声優科専任教員／教職員
内容:	『2025年度「雇用・学生・業界」の課題～だから大切に導きたい！初めての就職～』講師リッチビクチャーズ小澤明人氏 ●学生に感じる3つの課題 ●最新就活状況解説		
研修名:	第29回専門学校教育研究会	連携企業等:	公益社団法人東京都専修学校各種学校協会
期間:	2025年3月17日 14:00～16:25 於:アルカティア市ヶ谷私字会館	対象:	声優科専任教員／教職員
内容:	『生成AIの教育利用について』 講師:札幌国際大学 基盤教育部 准教授 安井政樹 氏、青山学院大学非常勤講師 安藤昇 氏		

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

- ①教育の一層の充実を図り、学校の目的および社会的使命を達成するため、各校における教育活動等の状況について定期的に関係者評価を行い、随時改善を図ることを目的とする。
- ②学園は充実した学校評価制度の構築に努め、各校・各部門はこれを実施する体制を整える。
- ③各校・各部門は、情報公開を念頭に置き、より高い基準を設定し関係者評価を実施する。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	使命、行動指針、教育方針、理念、目的、育成人材像
(2) 学校運営	運営方針、事業計画、運営組織、人事・給与制度、意思決定システム、情報システム
(3) 教育活動	目標の設定、教育方法・評価等、成績評価・単位認定等、資格・免許取得の指導体制、教員・教員組織
(4) 学修成果	就職率、資格・免許の取得率、卒業生の社会的評価
(5) 学生支援	就職等進路、中途退学への対応、学生相談、学生生活、卒業生・社会人
(6) 教育環境	施設・設備、学外実習・インターンシップ等、防火・安全管理
(7) 学生の受入れ募集	学生募集活動、入学選考、学納金
(8) 財務	財務基盤、予算・収支計画、監査、財務情報の公開
(9) 法令等の遵守	関係法令・設置基準の遵守、個人情報保護、学校評価、情報公開
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献の取り組み、ボランティア活動の取り組み
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

評価項目それぞれに対し、各委員から積極的かつ前向きなご意見をいただいた。それを職員間で共有し、様々な面から学校の改善に役立てている。

【意見・提案】利便性を考慮し、授業の履修をスマートフォン一つで完結できるようにしてはどうか

⇒本意見を踏まえ、全てとはいかなかったが学籍管理システムを活用し、学生がweb上で履修を申請・登録できるよう改革した。今後、全ての授業をスマートフォンから履修できるよう検討を重ねている。

【意見・提案】卒業生の支援について、企業在职調査の回収率を高めたり、積極的な就職・転職支援ができるといい

⇒進路先への企業に対する調査は定着率を図る重要な資料となる。できるだけ多くお戻しいただけるようその重要性和効果を進路先の企業へ適切に伝えていく。卒業生のHPをリニューアルしたり、求職者に対するメールマガジンなどを強化した。また、来校した卒業生のデータをGoogleFormにて集計することに今後の支援策検討に生かすこととした。

【意見・提案】学生支援について、様々な相談に応じられているか

⇒クラス担当の教職員は定期的に個別面談を実施し状況を把握しているが、担当以外にも気軽に相談できるよう工夫した。以前よりカウンセリングルームを設置し、スクールカウンセラーに相談できる体制を取っているが、利用率があまり高くなかった。そこで、名称を“TOHO Livingroom”と改称した。今後も入室しやすく、相談しやすい雰囲気となるよう改善を続ける。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
朝田 孝二	東京俳優生活協同組合 理事長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	進路先及び関連業界関係者
下地 純平	立川女子高等学校 進路指導部主任	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	高等学校教諭
篠宮 沙絵子	専門学校東京アナウンス学院放送声優科 卒業生	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	卒業生
大須賀 清美	声優科1年生保護者(現2年生)	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	在校生保護者
坂上 晶	専門学校東京アナウンス学院放送声優科 卒業生	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <https://www.tohogakuen.ac.jp/about/valuation/>

公表時期: 2024/5/8

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

認可された教育機関として、社会への説明責任を果たすとともに、教育の質保証・向上の観点から、学生、保護者、地域住民、関連業界企業等に教育活動や学校運営の状況に関する情報を提供する。また、同窓会組織や東放学園キャリアサポートセンターと連携を図り、卒業生や企業等から積極的に意見を聴取して、業界のニーズを反映した教育環境の整備や教育課程の編成に努める。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	基本理念、使命、行動指針、教育方針、学園概要、沿革、お問い合わせ
(2) 各学科等の教育	募集学科、募集定員、出願資格、学科紹介、学びのポイント、おもなカリキュラム、資格取得
(3) 教職員	学園概要(校長名、教員数)
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職・デビュー支援
(5) 様々な教育活動・教育環境	機材・設備
(6) 学生の生活支援	学生寮
(7) 学生納付金・修学支援	学費、奨学制度・教育ローン
(8) 学校の財務	情報公開(財務情報)
(9) 学校評価	情報公開(自己評価報告書、学校関係者評価報告書)
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <https://www.tohogakuen.ac.jp/about/philosophy/>

公表時期: 2024/3/31

授業科目等の概要

#REF!	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所			教員		企業等との連携	
	必修	選択必修	自由選択						講	演	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任			
1	○			俳優演技演習	俳優演技基礎Ⅰ・Ⅱで学ぶ演技力を軸に、音響や衣裳も加えて、舞台の本番を想定した実践的な表現力を身につける。	1・後	60	2			○	○			○			
2	○			中間発表	1年間の集大成として舞台発表を行う。ひとつの舞台をつくりあげることで、コミュニケーションの大切さを学び、観客の前で表現する難しさや緊張感を体験する。	1・後	120	4			○	○			○	○		
3	○			ヴォーカルレッスンⅠ	身体、呼吸、発声消舌の仕組みを理解し、それを歌に活かし、歌のレベルアップを図る。	1・前	30	1			○	○			○			
4	○			ヴォーカルレッスンⅡ	正しい発声・発音で歌うためのウォーミングアップを行い、グループレッスンから個人レッスンへとステップアップしていく。	1・後	30	1			○	○			○			
5		○		ダンスレッスンⅠ	身体のバランス感覚や柔軟性、筋力を総合的にバランス良く養って行くトレーニング方法を習得。また、音楽に合わせて踊るための音楽的な知識、カウント方法を身につける。	1・前	30	1			○	○			○	○		
6		○		ダンスレッスンⅡ	音楽に合わせて踊るための音楽的な知識、カウント方法を身につけることに加え、緩急、強弱等の表現に関わる部分を意識できるようにする。	1・後	30	1			○	○			○	○		
7		○		紙芝居	感情解放や喜怒哀楽、キャラクター作りなどの基礎を紙芝居をとおして学び、舞台から観客へ届ける表現力の出し方を身につける。	1・前後	30	1			○	○			○			
8		○		ピラティス	体幹トレーニングを通じて自分自身の身体と向き合い普段のクセ、弱点を知り強化していくとともに、声優にとって大切な呼吸法を学んでいく。	1・前後	30	1			○	○			○			
9		○		アクションa	アクション・殺陣の基本となるパンチ・キック・刀の振り方・受け方・リアクションを学び、芝居のシーンとして成立するよう身につけていく。	1・前後	30	1			○	○			○			
10	○			俳優演技基礎Ⅰ	マイク前で表現する俳優として必要な演技の基本を学びます。身体の訓練や表現を中心に、台本を読み解く力を身につける。	1・前	60	2			○	○			○			
11	○			俳優演技基礎Ⅱ	本読みや立ち稽古をとおして、俳優としての演技力はもちろん、キャラクター作りや相手役との関係性を理解する力を身につける。	1・後	60	2			○	○			○			
12	○			発声発音Ⅰ	ストレッチや筋力トレーニングなどの身体作りから、腹式呼吸を使った発声方法、消舌、アクセントなどを身につける。	1・前	30	1			○	○			○			
13	○			発声発音Ⅱ	五十音の単音からセリフなどの文章の発声を繰り返すことで、声優として大切な、わかりやすく響きのある声を鍛える。	1・後	30	1			○	○			○			
14	○			アーティキュレーションⅠ	口のかたちや舌の位置などに気をつけながら、声優に欠かせない消舌や歯切れのよい発音(アーティキュレーション)を身につける。	1・前	30	1			○	○			○			
15	○			アーティキュレーションⅡ	基本となる五十音や母音の無声化・鼻濁音などの発音を習得し、正しいアクセントではっきりとした日本語を話せるようにする。	1・後	30	1			○	○			○			
16	○			声優演技基礎	朗読やナレーションを題材に声の表現力を養うとともに、マイクワークなどスタジオ収録に必要な知識と技術を学ぶ。	1・後	30	1			○	○			○			
17	○			台本の読み方講座	台本へのアプローチの仕方をも身につけ、台本の解釈、役を演じるための役作りにおいて必要な情報を読み取る力を養う。	1・前	30	1			○	○			○	○		
18		○		フリートーク基礎	人前でしゃべることに慣れ、自己PRにつながる自分の魅力や個性をうまく人に伝えられる能力を獲得する。	1・前後	30	1			○	○			○			
19		○		インプロ入門	ゲームや即興芝居をとおして、協調性、積極性、発想力、集中力、コミュニケーション力などの向上をはかり、インプロ(即興)への対応力を養う。	1・前後	30	1			○	○			○			
20	○			芸術鑑賞Ⅰ	専門分野の知識・見識を高めるために、新劇や小劇場演劇、美術展、ライブなどプロのパフォーマンスを鑑賞する。	1・通	30	1			○	○	○					
21	○			業界特別講座	現役声優やプロダクションなどによる講義をとおして、声優として必要な現場の空気感、知識などを学ぶ。	1・通	30	2	○			○	○					
22	○			セルフブランディングⅠ	声優をめざす上での心得を理解し、オーディション対策などをとおして、業界でもとめられる人材になるための自身のブランドの価値を高める。	1・通	30	2	○			○	○					
23	○			公演・制作演習	ゼミの成果を発表。舞台公演ゼミでは外部のホールで卒業公演を、アフレコゼミでは卒業制作として外部のスタジオで収録を行う。	2・後	120	4			○	○			○			
24		○		アフレコゼミⅠ	現役で活躍する声優、俳優が指導にあたり、アニメや映画を題材に台本の分析、役作り、セリフ術、マイクワークなどを学ぶ。	2・前	150	5			○	○			○			
25		○		舞台公演ゼミⅠ	舞台の台本を使って演技を学ぶなかで、シチュエーションの把握や役作りを行い、表現スキル、特技や個性を認識し、それを更に高める。	2・前	150	5			○	○			○			
26		○		アフレコゼミⅡ	アニメや映画を題材にしたアフレコ実習をとおして、読解力の大切さを認識し、五感を鍛え、リアルな台詞に磨きをかける。	2・後	150	5			○	○			○			
27		○		舞台公演ゼミⅡ	卒業公演に向けた稽古課程から、実践的な演技力や表現力、キャラクターの作り方を学ぶ。	2・後	150	5			○	○			○			
28		○		論文ゼミ	自身が得意とする分野において研究テーマを見つけ、担当教員の助言を受けながら深く追及する。多くは校外での資料集め、執筆活動となる。	2・後	150	5			○	○	○					
29		○		朗読	語りと台詞で構成される作品の内容を理解し、正確に読みながら、聞き手を楽しませる朗読のテクニックを身につける。	2・前後	30	1			○	○			○			
30		○		ナレーション	さまざまな現場のナレーションを知り、理解し、発話する。ジャンル毎のナレーション原稿を読むことで多くのテクニックを習得する。	2・前後	30	1			○	○			○			

31		○	ラジオドラマ	発声・滑舌の基礎力を磨き、声と言葉だけでの自然な躍動感のある生き生きとした表現を身につけ、ラジオドラマの収録を行う。	2・前後	30	1			○	○		○	
32		○	ラジオパーソナリティ	聞き手を考えてしゃべることを意識しながら、自分の言葉で経験や感想、考えなどを話せるようにトレーニングする。	2・前後	30	1			○	○		○	
33		○	ヴォーカルレッスンⅢ	声優として必要な声の幅と歌唱感覚を身につけ、さらなる歌唱力アップを図りながら声と歌唱の自由度をできるだけ広げていく。	2・前	30	1			○	○		○	
34		○	アクションb	技術だけではなく、表現としてのアクション・殺陣を修得する。人前で表現として、どうしたらいかに格好良く見えるのか考える力をつける。	2・前後	30	1			○	○		○	
35		○	ゲームCV	ゲームのCV(キャラクターボイス)の仕事を理解し、声のみで役の性格と気持ちの表現をするためのテクニックを身につける。	2・前後	30	1			○	○		○	
36		○	キャラクターゼミ(倉田)	マルチに活躍できる人材になれるようアニメ・映画・司会・フリートーク・ラジオ・ドラマ・CM読みなどをとおしてタレント性を磨く。	2・前	60	2			○	○		○	
37		○	キャラクターゼミ(加瀬)a	マルチに活躍できる人材になれるようアニメ・映画・司会・フリートーク・ラジオ・ドラマ・CM読みなどをとおしてタレント性を磨く。	2・前	30	1			○	○		○	
38		○	キャラクターゼミ(加瀬)b	マルチに活躍できる人材になれるようアニメ・映画・司会・フリートーク・ラジオ・ドラマ・CM読みなどをとおしてタレント性を磨く。	2・後	30	1			○	○		○	
39		○	声優アーティストゼミ	歌唱力の向上をはかるとともに、声優アーティストの楽曲でダンスレッスンをを行い、最終的に歌いながら踊る発表会を実施する。	2・後	15	1			○	○		○	
40	○		発声発音Ⅲ	発声練習の題材などを使用し、繰り返し発声をすることで、強く厚みのある声を修得する。	2・前	30	1			○	○		○	
41	○		アーティキュレーションⅢ	正しい母音の発音、口の開け方、舌の位置など声優にとって不可欠な言葉の訓練を行う。	2・前	30	1			○	○		○	
42		○	オーディション・サポート	オーディション用紙の記入方法、オーディションの流れや心構え、オーディションを見据えた日常の過ごし方を学ぶ。	2・前後	30	1			○	○		○	
43		○	MC・フリートーク	フリートークでは相手に分かりやすく伝える会話の構成方法を、MCでは進行だけでなく、ゲスト、お客様、クライアントに良い時間を過ごしてもらえるような空間づくりを学ぶ。	2・前後	30	1			○	○		○	
44		○	ビジネスマナー	社会・組織の一員として必要な基本的なビジネスマナーを習得し、社会人として求められる姿勢・資質・能力を身につける。	2・通	30	2	○			○		○	
45		○	J-POP I	母音、ブレス、音程移動の仕方など、発声の基本となる練習法を曲の中で学び、どうすれば空気で声を支えて歌えるようになるのかを具体的にアドバイスする。	2・後	30	1			○	○		○	
46	○		芸術鑑賞Ⅱ	専門分野の知識・見識を高めるために、新劇や小劇場演劇、美術展、ライブなどプロのパフォーマンスを鑑賞する。	2・通	30	1			○	○		○	
47	○		進路対策講座	声優業界を理解し、オーディション対策、声優科応援プロジェクトなどを通じて進路決定のサポートを行う。	2・通	30	2	○			○		○	
48	○		セルフブランディングⅠ	オーディション対策などをとおして、業界に求められる人材になるための自身のブランド価値をさらに高める。また、社会人として必要なスキルを磨く。	2・通	30	2	○			○		○	
49														
50														
51														
52														
53														
54														
55														
56														
57														
58														
59														
60														
合計						48	科目	1875						単位(単位時間)

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件: ①期日までの学費納入		1学年の学期区分	2期
履修方法: 初回の授業(ガイダンス)で内容を確認し、期日までに履修科目の登録を行う		1学期の授業期間	15週

- (留意事項)
- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
 - 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。